

7 各区のシンボルマーク

千 種 区



昭和46年11月に公募。405点の中から選ばれた。

千種の「千」の字を伸びる樹にみたて意匠化し、太陽と緑にめぐまれた千種区をイメージさせる。

(昭和47年1月20日制定)

中 村 区

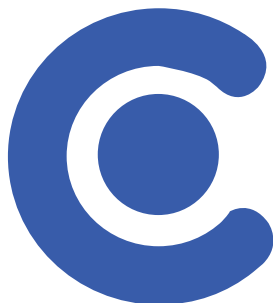


全体は中村の中を表し、左側にム、右側にラを配している。

いつの世でも中村区がたえず前進することを願い、今まさに大空に向かって飛び立とうとしている鳥のイメージを表現している。

(昭和62年4月制定)

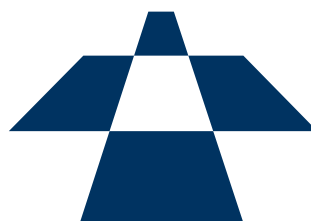
東 区



東＝「EAST」のEをデザイン化したもので、全体の丸味は区民の和と明るい未来を象徴している。

(昭和62年9月制定)

中 区



「中」の文字をデザイン化し、飛翔する鳥の姿と縦横に走るストリートをイメージさせて、発展する中区を表現したものである。

(昭和62年11月制定)

北 区



市制100周年を機に応募作461点から選定。

区名「北」の漢字をデザイン化し、区民の和と協調を表すとともに、雄飛発展する北区の輝く未来を力強く象徴している。

(昭和63年2月制定)

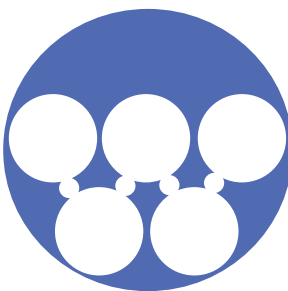
昭 和 区



昭和区のイニシャル「S」の広がり、区の飛躍、発展を表し、幸運をよぶ四つ葉のクローバーを重ねたデザインである。

(昭和62年3月制定)

西 区



英語の西＝「WEST」の頭文字Wをデザイン化し、丸のつらなりで区民の連帯を象徴し、一丸となって豊かな明日をひらくエネルギーを表現している。

(昭和63年1月25日制定)

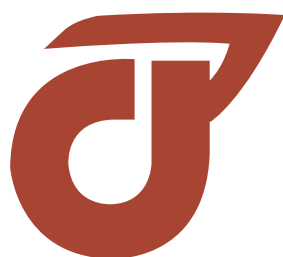
瑞 穂 区



「いつまでも住みつづけたいまち—瑞穂区」の願いをこめて、イニシャル「M」を花びらにアレンジし、中央に名所、山崎川の清流を組み合わせ、瑞穂区の限りない発展・躍進を表している。

(昭和62年10月制定)

熱 田 区



(昭和62年3月制定)

アツタの「ア」を図案化したもので、上部の矢先で区の発展を、下部の円形で区民の連帯と和を表している。

守 山 区



(昭和58年10月制定)

守山の頭文字「M」と「山」を組み合わせ象形化したもので、外側の丸形の「M」が区民相互のふれあいの豊かさを、全体で鳥が大空へ飛び出すがごとく、伸びゆく守山を表している。

中 川 区



(昭和61年11月制定)

「中川」の文字を区の全体にデザインし、川が多い中川区の特徴を生かして文字の中にイメージしたものである。

緑 区



(昭和49年2月制定)

昭和48年4月に緑区区制10周年を記念し、区民より募集したもののうちの入選作。
みどりの「み」と木の葉をデザイン化したもので、緑区が無限に成長する願いもこめられている。

港 区



(昭和62年4月14日制定)

みなと区の「み」と港をゆうゆうと飛ぶ「カモメ」を組み合わせたもので、港区の限りない発展と躍進を希求するものである。

名 東 区



(昭和55年3月15日制定)

区制施行5周年を記念して区民から募集した応募作品の中から選定したもので、めいとうの「め」をデザインし、人の和と名古屋の東玄関名古屋インターチェンジのイメージを盛りこんだもの。

南 区



(昭和63年1月制定)

「莊子」の図南鵬翼の意からミナミの「ミ」を、調和・団結・発展の3本の白線が未来に向けて飛翔する姿を表し、地色は南を表す朱雀と区民の情熱を意味する深紅でデザインしたものである。

天 白 区



(昭和60年2月制定)

天白区の「て・ん」の二文字を組み合わせ、区民が手を組み協力していく姿をデザイン化したもの。
中央のとがった形は、天白区の未来への発展を表現している。